

組織目標評価報告書（平成25年度）

部局名： 附属図書館

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標	
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
②研究領域	自己評価
②-1 目標	
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標 学位規則の改正を受けて、博士論文のインターネット公表について学内関係部署と連携し遺漏なきよう進める。また、貴重資料を活用した展示会や公開講座、インターネットによる公開拡大等に努め、社会に貢献していく。	<p>平成25年4月からの学位規則改正に伴う博士學位論文全文の公表義務化に対しては、学務部と連携し体制を整えている。</p> <p>博士論文のインターネットによる公表については、以下の通り実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成25年6月授与 取得者18、要旨公開18、本文公開15 ・平成25年9月授与 取得者54、要旨公開54、本文公開33 <p>所蔵する貴重資料を活用した社会貢献事業については、池田家文庫絵図展(入場者1,311名)、岡山大学公開講座(4回、参加者125名)、池田家文庫子ども向け岡山後楽園ワークショップ(2回、54名)を実施した。また資源植物科学研究所分館では、資源植物科学研究所100周年の関連イベントとして大原系研究機関所蔵の貴重資料企画展示を開催し、151名の来館者と各報道機関からの取材があった。</p>
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標 学術成果リポジトリへの採録論文数及び利用ダウンロード数。	
④センター業務	自己評価
④-1 目標 耐震改修を契機として関係部署との緊密な連携を図り、より魅力的な図書館空間の創出に努める。また、工事期間中は可能な限りサービスの維持をし学生の学習を支えていく。電子リソースを安定的に提供できるように全学WGを開催して学内意見を調整し、全学的見地から本学の研究支援に必要な不可欠なタイトルを選定していく。	<p>平成25年度に実施している耐震改修工事と概算要求に向けた新たな附属図書館構想について、学生、図書館利用に関わりの深いセンター、事務部、大学生協等からの委員により構成される中央図書館利用者サービス実施検討ワーキングを中心に検討を進め、平成26年2月に提言をまとめた。今後は提言を基に教育改革の一環としての附属図書館の機能強化を具体化していく予定としている。</p> <p>相互利用サービスは休館中も実施するとともに、工事期間中の学習スペース不足に対応するため、全学部に学習代替スペース確保を依頼し、結果を取り纏めてホームページ等で周知した。</p> <p>電子リソースについては、急激な円安による電子ジャーナル等経費の不足に対応するため学内調整を行い、平成26年度については購読規模の維持、平成27年度以降については全学的な委員会において検討を進めることとなった。これを基に平成26年度購入電子ジャーナルデータベースのタイトルを確定した。平成27年度以降の経費については、電子ジャーナル等経費検討委員会を11月に立ち上げ、3月までに4回の委員会を開催し提言(案)を作成した。</p>
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標 貸出冊数、図書館利用者数、E-J利用数。	
【総括記述欄】	<p>平成25年度は、耐震改修工事を実施したため利用者サービスは大きな制約を受けた。このような状況に対応するため全学部に学習代替スペースの確保を依頼するなど可能な限り利用者サービスの維持に努めた。また、社会貢献事業、学位規則改正への対応、電子リソースの安定的提供に向けた学内調整等は着実に実施した。次年度以降は、中央図書館利用者サービス実施検討ワーキングで作成した提言を基に新たな利用者サービスを順次実施する予定としている。</p>